

永代経とは

永代経とは、簡単に表現しますと門信徒の方々によるご懇念によって、お寺が立派に護持され、お念仏の教えが永代に受け継がれていく法要です。

それは、故人を偲ぶとともに、いのちを恵まれた私たちが、法要をご縁として、仏恩報謝の心を表すことであり、その心はやがて子や孫に受け継がれ、み教えを聞き広めるご縁となります。ご法義を大切にされる方々の思いが、永代経法要であるともいえます。

永代経は、正しくは「永代祠堂経（えいたいしどうきょう）」と言い、『無量寿経』や『阿弥陀経』のような経典の名前ではありません。

「永代」とは寺院が存続する限り永遠・末代にいたるまでと言う意味で、「祠堂（しどう）」とは仏像・その他を祠^{まつ}った御堂という意味があり、つまり本堂並びに寺院のことを言います。

寺院本堂・仏法が永代にわたって護持されることを願って営まれる仏事が永代経です。

お預かりいたしました懇志は、仏法興隆・寺院護持発展のために活用されますと同時に亡き人をご縁としてお経が勤められます。

特定の故人や〇〇家先祖代々への追慕を機縁とし「将来の子々孫々にまで大切な仏法が伝えられてゆくように」という施主様の尊い願いがこめられていくのです。

永代経の名目について

一般的に、故人の法名「釋〇〇」を掲げて申し込まれる場合が多いのですが、範囲を広げて「〇〇家先祖代々」とされても結構です。

また生前に御自分自身の永代経を申し込まれる場合もあります。

基本的にどのような立場であっても永代経を申し込むことができますが、以下のような立場の申込が目立ちます。

① 諸般の事情（例：家督を継承すべき跡継ぎがない等）により、将来的に家で仏壇を護持し、仏事を勤めることが困難である。

② 跡継ぎはいるが、多忙のため法事などを勤めることが難しい。

③ 日常的に仏事を営んでいるが、更なる故人への菩提のため、仏法興隆のため、寺院の護持発展のため尽力したい。

お申込の流れ

(1) 住職に申込の意をお知らせいただく

(2) 受理・手続き開始

(3) 開關〔かいびやく〕法要実施 開關法要とは本堂にて願主・ご家族・親戚方にご参詣いただき、大光寺阿弥陀如来の尊前で永代経に加わることを奉告する法要(30分弱)です。

(4) 以上で手続きは完了ですが、日ごろお寺に縁遠い方は年に1回でも本堂にお越しいただき「故人・先祖を偲ぶ報恩感謝のおつとめ」をされる事をお勧めいたします。

永代経種別一覧

種別	懇志額	御扱い	読経
特1種	100万円以上	種別相応の記念品 感謝状	個別月忌 (50年間)
特2種	50万円以上	種別相応の記念品 感謝状	個別月忌 (30年間)
1種	30万円以上	種別相応の記念品	個別祥月 (30年間)
2種	15万円以上	種別相応の記念品	祥月総経 (30年間)
3種	5万円以上	種別相応の記念品	祥月総経 (10年間)

※「〇〇家先祖代々」の受付は特2種以上です

※すべての種別において本堂に一定期間木札を掲示いたします。